

集落支援員3年目のふりかえり

～名峰靈山＆農村RMO～

令和7年12月15日

伊達市集落支援員（靈山地区担当）

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」事務局長

靈山道先案内人会事務局

かもしか創生舎

浜田 和彦

目次

はじめに

1. 名峰靈山の魅力の発信と発掘
2. 農村RMO活動
 - 1) 農村RMOとは（おさらい）
 - 2) 2年目の実証活動
 - 3) 3年目の実証活動と今後の仕込み
 - 4) 農村RMO活動の振り返りと将来展望

おわりに

はじめに

×本来の集落支援員活動（霊山地区点検）



○名峰霊山の魅力の発信と発掘

○大石地区での農村RMO実証活動（3年目）

1. 名峰靈山の魅力の発信と発掘

1) メディアへの露出



「U字工事の旅発見」
～福島テレビ9月13日放映～



YouTube

縦走コースカメラ初潜入！



「にっぽん百低山」
NHKBSP 4K 12月16日(火)21時～
NHKBS 12月22日(月)19時～

1. 名峰靈山の魅力の発信と発掘

2)新登山ルート開拓



①北靈山周回コース（11/21調査登山）

*湧水の里キャンプ場発～着ルートの開発



②旧県道山麓 縦走コース (縦走帰り)

1. 名峰靈山の魅力の発信と発掘

3)振り返り

☆靈山総合支所の全面バックアップ

伊達市振興公社の応援

→ “すごい風が吹き始めている！”

4)今後の予定

☆イオンモール伊達の訪問客への靈山プロモーション（構想）

・名峰靈山の魅力発信ミニセミナーの不定期開催

・道先案内人会へのつなぎ、案内機会の拡大 → ファン獲得

☆山の保全の協働活動（構想）

・伊達市、市民、交流者 . . .

2. 農村RMO活動

1) 農村RMOとは（おさらい）

- ・農水省の助成のもと、中山間地域再生のための地域の実験事業
(ビジョン～計画～実証、期間3年)

→令和5年8月

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」設立

- ・3つの取組カテゴリ

農用地保全

地域資源活用

生活支援

- ・住民主導と行政支援をはかり地域の活性基盤を醸成

◎活動スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動期間	<p>申請・受理</p> <p>★7月 協議会発足 1年目（8月～3月）</p>	<p>2年目（8月～3月）</p>	<p>3年目（8月～3月）</p>	
ビジョン策定				
調査・計画				
実証				
予算：¥ 530万		予算： ¥650万		予算：¥ 550万

2) 2年目の実証活動

農用地保全

農用地マップ

獣害対策

有機栽培

休耕地対策

体験農園

新作物・6次化商品

プロモーション

(デジタルサイネージ)

地域のブランディング

(地域資源活用研究会)

学生共同参画

地域資源活用

農福連携

住民調査

プロモーション
(YOUTUBE)

外出支援

地域のナース
(見守り支援)

健康の見える化 (デジタル教育)

生活支援

ビジョン実現

協働・自立

担い手育成

事業実行のポイント：点→線→面へ展開するためのストーリー作りが重要

3) 3年目の実証活動と今後の仕込み

◎ 主な活動テーマ

① 農用地保全 :

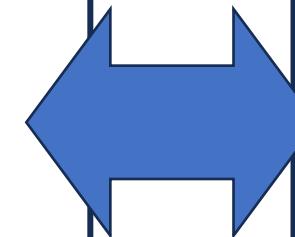
- ・次代を担う人材（新規就農者）の呼び込み・育成
- ・獣害対策
- ・体験農園の活性（別助成事業にて）

② 地域資源活用

- ・地域のプロモーション

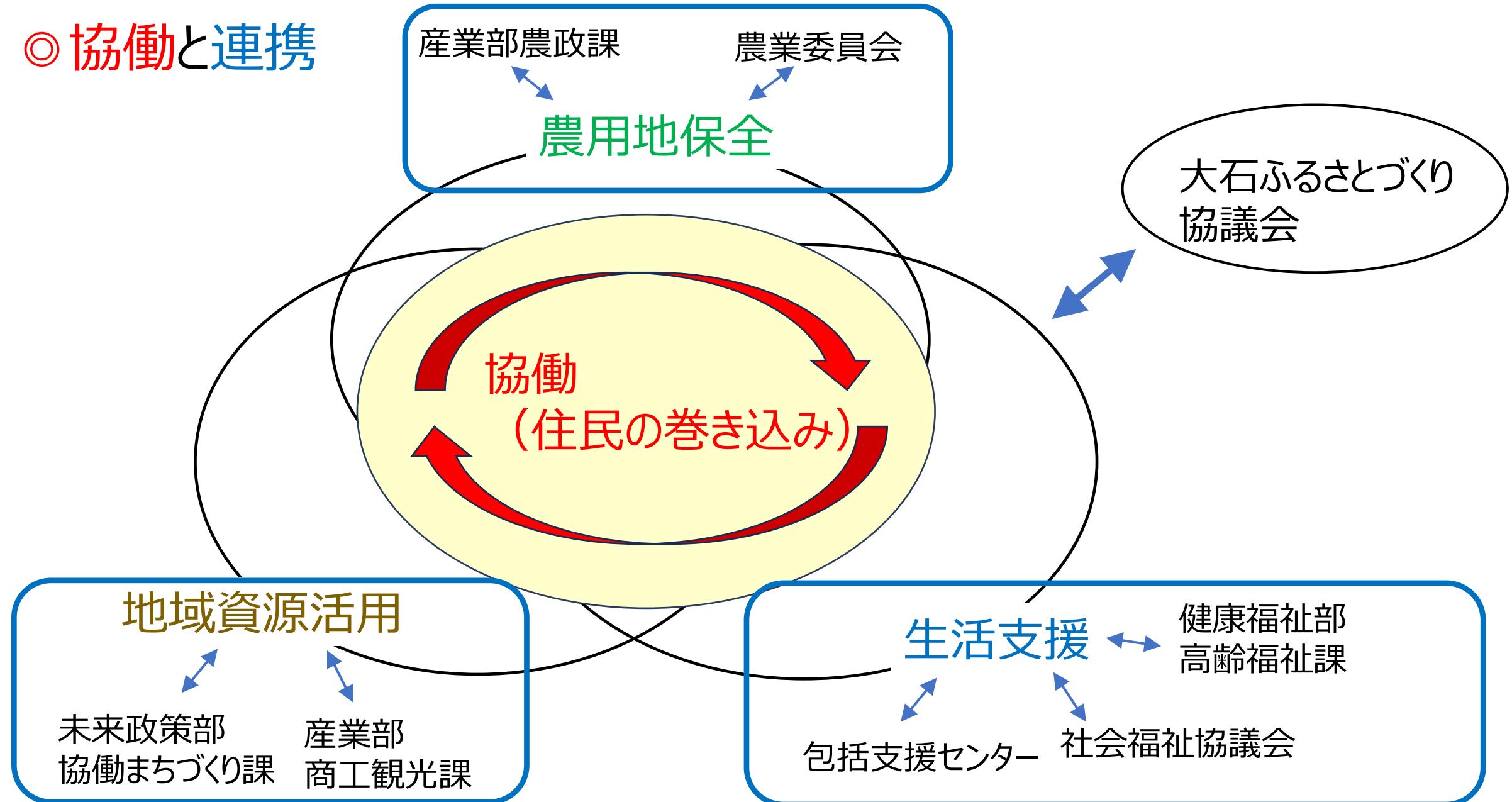
③ 生活支援

- ・外出支援の事業整備
- ・地域のナース導入運営（草の根の福祉）



農村RMO以降の
地域活性基盤
維持と展開摸索
(協働と連携)

◎ 協働と連携



<活動事例紹介> 外出支援



事業継続の住民の期待大
→高齢福祉課と相談中
(行政との連携の試金石)

◎免許返納者や一人暮らしの高齢者等を対象とした期間限定の送迎サービス実証。
(期間 : R7 11/10～R8 2/20)

- ・玄関から目的地まで車（レンタカー）による往復利用。距離の限定は特に行わず。
- ・交付金活用の事業なので利用料は無料（利用者には感想アンケートを記載）
- ・有償ボランティアとして運転手も地元募集
- ・事務局を一般住民へ移管、グループラインを活用し、利用者と運転手のマッチング業務を実現
(RMO事務局を介在しない初の実証事業)

→現在、22名の利用登録者、4名の運転手にてサービス実証中。

4) 農村RMO活動の振り返りと将来展望

☆打ってもなかなか響かない住民協働と行政連携

- ・地区の自治会とは一線を画す市民権を持たない任意協議会
(住民：わかりづらい、行政：関わりづらい)
- ・事業を仕掛ける側の体力不足 (一緒に考える駒が欲しい)
- ・市外の団体からは講演の引き合いは多いのに、内部 (伊達市) から当協議会に対する積極的照会がないのは何故?
(無関心?、余計な事に関わりたくない?)
- ・未来へむけた風も吹きはじめてきた・・(外出支援の展開)

◎将来展望

①地域自立において結果を出すには、農村RMOの3年間は短すぎる（地域自立のための基盤の基礎までがせいぜい）
→事業の選択と未来へ向けた持続的成長の仕込みの継続

（×元の木阿弥）

②連携への積極的姿勢

→住民主導の地域づくりにおいて、外部との相互連携が大前提

農村RMOは中山間地域における市政の縮図

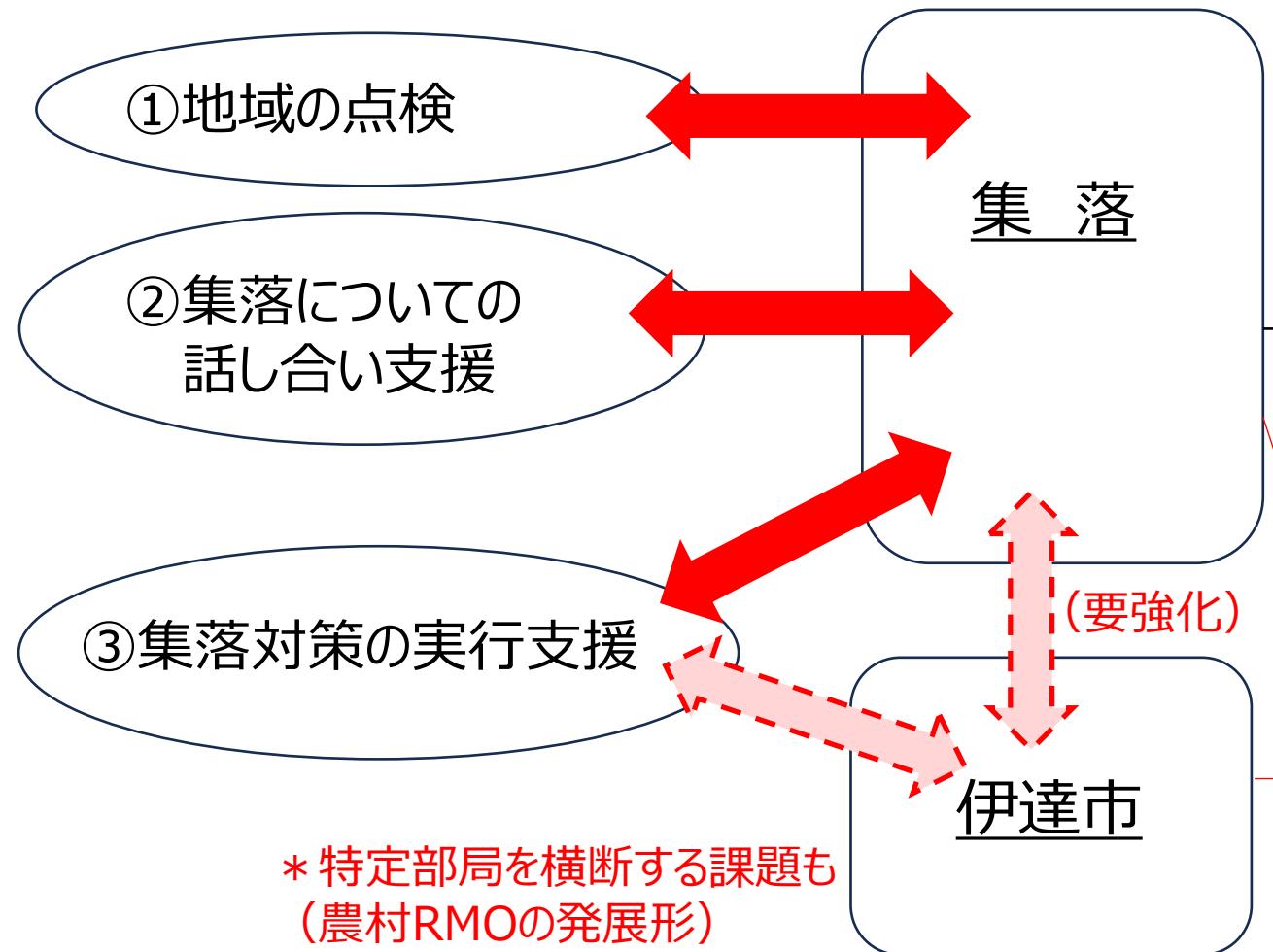
まずは我々の実証事業に関心を持ってほしい

（30分コースの講演要請受けます）

傍観→関心→応援→協力→協働の意識・行動改革を！

おわりに～集落支援員のあり方について考える

＜集落支援員の役割＞



＜るべき役割＞

地域協働を流れを
促進させる触媒

○集落でできる事

- ・賑わい創出
- ・地域内見守り 等

●集落だけできない事

- ・地域交通確保（生活の足）
- ・移住・交流推進
- ・農業振興・休耕地対策
- ・地域の担い手獲得・育成
- ・（他集落への展開）等

ご清聴ありがとうございました